

敵狩りは普通科のA組の 雄英1年生

arc5

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

俺はヒーローが嫌いだ。己の欲のままに暴れる敵が嫌いだ

だから俺は自分のために生きようと決めた。誰の邪魔にもならないように

という重苦しい設定は嘘である。まあ敵もヒーローもあまり憧れないのは本当だ。

んで俺は裏街で毎日のように敵やそれより弱いチンピラなんかを殴っていた。全部ストレス発散のためである。

そんな俺にもやってみたいことがある。こんな世界にいるんだ。体育祭はもう知っているはずだろう。俺はそれに出てみたい。毎回表彰されるのはヒーロー科のA組。面白くない。

俺はあのイベントで、観客全員に見せてやるんだ。

なにもA組だけが目立つんじゃないと。

他のクラスは、引き立て役じゃ、ないんだと……

そして変えるんだ。ヒーローの在り方を……

※ヒロイン若干ヤンデレ気味ですが、タグにかくほどうまく書けるか分からないので

ここに書いておきます

※タグ増えるかもです

目次

プロローグ

俺は敵を狩る

1

プロローグ

俺は敵を狩る

パイプが張り巡らされ、室外機が音を立てる暗いこの場所。

路地裏がいくつにも交差してできた裏街では猫を見かけたときくらいしか笑みはこぼれない。

なぜなら大半は敵狩り……違うな。己の戦いたいという欲求に従っているためだ。気付けばここにきている。

そして今日も……

「てめえがちまたで噂のガキか。ちと雑魚より強エからって調子に乗んじゃねエよ！」個性によつて強化された拳をこちらに突き出す。だが、単調すぎて躲す当たれと言われた方が難しそうだ。いや、一般の人からすると躲す方が難しいのだろうか。

だが俺は違う。幼いころから何度もこういうことをしてきた。

「な!? 躲すなんて生意気なことしやがって!!」

俺は今中学三年生だ。学校にはちゃんと通っているから、周囲にはただの友達がいな

い子という認識になつてゐるはずだ。

そうこう回想しながら俺は軽々と相手の大柄な男を殴り飛ばす。

周りでこそそこそ見ていた輩も初見の奴は恐怖で逃げていき、何度も見てきた奴はやっぱりなという表情で酒を飲んでゐる。そして……

「やあ、やつぱり君は強いねエ。いやアその個性嫉妬しちゃうよ」

「……またアンタか。何度も言わせるなよ」

「分かつてるさ。君が敵側になりたくない気持ちはもう十分に分かつたつもりだよ」

「じゃあ一体なんのためにやってきたんだ。会うのも嫌だから金輪際対面NGで頼むぞ」

俺の背後にいきなり現れたそいつは、平和の象徴がオールマイトならば、敵の象徴はコイツだ。

「おお、やつぱり君は良いよ。ぜひその個性欲しいね」

オールフオーワン。まさに悪の帝王、象徴、オールマイトが倒しきれなかった敵。そんな奴がいきなり現れたんだから周りの奴らはその威圧で圧倒されて身動きもできていない。

こんな気持ち悪いオッサンのどこが怖いのか分からないが。

「そんな君に朗報なんだけどね？今女の子が表に出るところで囲まれてるよ」

「俺はそういうのには興味ないんでな。助けたいとかそういうのダルいし」

「まあそういうなって、その子に聞くとね？どうにもヒーローの子だから賠償金が高く貰えるだろうとさらおうとしてるらしいんだけど、どうもその子あの雄英に推薦で入れる子だそうで」

「……まさか俺に手伝えとかいうんじゃないだろうな」

「いやいやそんなことは言わないよ。君ここから一番近い帰路つてその道だから帰れるのかなーとね」

……確かに家にすぐ帰れないのは困る。一人暮らしだから心配をかけてしまうなんて理由ではないけれど。

今ちなみに学校が終わって放課後の夜10時くらいである。しかも平日なので明日に響くのはさすがにヤバイ。

「はあ、ヒーローとか嫌いなんだけどな」

俺はその場所に向かったのだった。